

第3回X会議議事要旨（速報）

- 1 日 時 令和7年11月28日(金)15時00分～17時10分
- 2 場 所 北九州市役所本庁舎3階 大集会室
- 3 出席者 北九州市長 武内和久、副市長 江口哲郎、片山憲一、大庭千賀子
顧問 上山信一、山本遼太郎(官民連携ディレクター)
参与 田中江美 ほか

4 概 要

◇会議の冒頭、市長から以下の発言があった。

- ・各区では、今年度から改革のギアが上がってきて、予算、体制強化、政策提案が一步進むことができたところだが、まだまだ様々な課題があると思う。各区における取組みがどうやって導き出されたのか、報告を聞きたい。
- ・ユーザー目線の取組みをさらに進化させていくため、知恵を合わせる会としたい。

(1)各区のまちづくり戦略

○各区のまちづくり戦略について、各区役所及び総務市民局から、今年度の取組状況と今後の課題や展開等を報告した。

・戦略担当の配置により、各区では、地域住民との協働による課題解決、区役所の姿・サービスの改革、持続可能な地域コミュニティづくり、地域での若者の育成・参画、地域資源の活用促進など、独自の取組みを実施。

・区で把握される地域課題の量・質が向上し、課題解決のスピードも増している一方、区がつかんだ課題を市全体で整理し、政策化につなげる機能は途上。

○討議では以下のような意見があった。

- ・各区での取組みが非常に進んでいる。これを市政全体として受け止め、つなげていくことが課題。
- ・戦略担当の配置によって、区が地域のニーズオリジンな取組みができていると実感した。今後も地域のニーズオリジンの課題をとらえつつ、人材育成により継続して発展させていくことが大事。
- ・各区の取組みの根底は同じで、新しいコミュニティを探している。それぞれの取組みを抽象化して全体に広げていくことができると思う。
- ・区が戦略を考えるというアプローチは正しいと確信した。これだけ広く、かつ地域特性が多様であれば、区独自の戦略は考えるべき。次の課題は、区がもっと踏み込んだ活動をするために、独自の権限や予算をもっと与えるべきではないかということ。
- ・総務市民局が区政を束ねるというのは、ベクトルが逆ではないか。もっと区をサポートする発

想が必要。区長会議の議論で出てくるエッセンスをトップにぶつけていくことが大事で、その裁きを総務市民局にやってもらいたい。

- ・区民の真の思いに寄り添おうという気持ちが伝わった。変に束ねようとせず、数を積み重ねれば大きな力になるのではないかと。吸い上げる・展開するというのではなく、場を用意して、互いに取りに行く、互いに展開するということを期待している。

- ・区役所の組織体制も今後の論点。区長のリーダーシップが一層発揮しやすく、戦略担当の活力も生かしていくにはどうしたらいいか検討テーマにしてほしい。

- ・地域には、まだまだ解決しきれていない課題がある。予算や人員がもう少しあるともっと挑戦できる。

- ・束ねるとか吸い上げるということではない。区の実践に留めるのではなく、区と縦割りの各局の連携をもっと図っていけば、市全体としてパワーアップすると思う。

- ・どの区も強力な区長・戦略担当・スタッフがいて、これだけの動きができている。ありがたく思う。

- ・区政の意味役割を再定義して進めている過渡期であり、戸惑いを感じている職員もいるかもしれないが、トライアンドエラーが進んでいるのは良いこと。

- ・市民の皆様をどう巻き込むか。まちをどう活性化していくか。どう市民目線に変えていくか。さらに進める努力を一緒にしていきたい。

- ・対外的なサービスモデル改革と、対内的な区役所の変革は、車の両輪。人の面でも予算の面でも声を上げて欲しい。一步一步ではあるが、引き続き一緒に進んでいきたい。

(2) プラチナ市役所プロジェクト

〇令和7年度プラチナ市役所プロジェクトの進捗状況およびプロジェクトチームでの課題と解決策の検討状況について、代表として個別課題3件を中心に報告した。

・昨年度と異なり、プロジェクトチームで課題を掘り下げ、課題の解決案まで検討し、所管課との協議を実施している。今後、所管課での対応が進むよう、どんどん進めていく。 ・技術職員の更衣スペースが不足しているなどの課題と、技術職員更衣環境の改善を提案。 ・傘ごみを削減するため、急な雨に対応した傘のシェアリングサービスの導入を提案。 ・市民にとって快適な行政環境を実現させるため、区役所窓口において発見した課題とそれに対する解決策を提案。

〇討議では以下のような意見があった。

(技術職員の更衣環境の向上)

- ・技術職員の働く環境の問題が明らかになった。技術職員の女性職員の割合は、増え続けており、重要性が高まっている。なかなか声をあげる機会がなかったが、技術職員の獲得にも与できるように、スペース問題など検討していきたい。

・現場に行く部署だけでなく、内部管理の部署もあるため、その点を踏まえ検討する必要があるが、技術職員の人材獲得において、働く環境の発信も大事なため、寄与できるようにスペース問題など検討していきたい。

・区役所でも、年度替わりの時期にスペースの使い方を検討している。プラチナの視点も参考にしたい。区、プラチナ双方の良い意見を取り入れていきたい。

・職員の困りごとについては、コミュニケーション関係などはどんどん変えていけばよい。他の課題についても、所管局に早くつないで成果を期待したい。検討が滞ることがあれば副市長としても支援したい。

・技術職員の状況は、事務職員では気づかないこともある。まずは限られたスペースをどのように使うのか、それぞれのフロアで考えてもらった上で、必要があれば、庁舎管理がサポートしたい。

・更衣室における安全面の課題はすぐにでも改善すべき。ロッカーについては、入れなければならない私物と、共用のものを整理する必要がある。

（官民連携による傘ごみゼロのまち）

・シェアリングエコノミーの視点から、様々な立場の人を巻き込んでいっていきべきかと思う。サステナブルの協議の場で話すことになると思うが、一方でコストをかけてまですべきかということは考えないといけない。

・各区にも忘れ傘があるので、区でまず活用してはどうか。

・傘は、区役所から駐車場に行くタイミングで置くとよい。

・福岡市で既に予算なしでやっているような話は、こういう場で討議するものではなく、すぐ実施すべき。他の自治体では当たり前で公民連携で動いているところ。

・まちの中で、市民にサステナブルをどう実感してもらうかという点で、傘のシェアリングはシンボリックな良い仕掛けだと思う。マネタイズが必要だが、思いを持った人間がやらないとできないと思う。

（区役所の窓口サービス向上）

・区役所ではDXも進めている、動線等を考え記帳台を減らした。新しい発想が欲しいところ。ぜひ、一緒になって改善できればと思う。

・待ち時間対策は病院の工夫などを参考にするとよい。

（全体について）

・プラチナのテーマの選択も内容も良くなった。もう少し加速して負荷をかけてもよい。

・出てきた課題をすぐ担当課に提示してもよいのではないかと。特に区役所や車・駐車場の関係。いつまでもチームが検証しつくす必要はない。

・大企業でゆっくりしたところでも3か月、ベンチャーはその瞬間で決める。チームはよくやって

いるが、事務局のスピード感が足りない。

・プラチナは若手職員の人材育成の意義がある。これまでは、課題の提案、掘り下げまでやってきたが、それだけでなく成果を刈り取るところまでやってもらった方がよい。

（本部長である武内市長から）

・チームのテンポとリズムがだいが議論された。予算の問題や担当課の逡巡など、とらわれの思考を乗り越えていってほしい。できるものはクイックに実行していく。

・フォーマット主義にならないほうが良い。手続きにとらわれず、恐れずやってみるというテンポとリズムをサポートしていきたい。慎重に分析してくれた思いはよくわかった。

問い合わせ先 市政変革推進室

電話番号093－582－3170